

令和2年度 清瀬療護園事業報告

1 総括

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、三大大行事や各種企画の中止、地域交流やボランティア受入れの中止、ご家族との面会や外出を制限する等、ご利用者に多大なるご負担をお掛けしました。一方で職員が主体的に企画内容を安心して楽しんでいただけるように工夫する等、潤いある生活の実現に取り組めました。どうすればご利用者の安全を守りながら QOL の維持向上を図れるのかを考えさせられた一年でした。

ご利用者の高齢化や重度化が進み業務量が増加傾向にあり、これまで以上に他職種との連携強化が求められますが、残念ながら連携が上手くいかなかったための事故やヒヤリハット、特に2ヶ月で5件の服薬事故が報告されました。同時期に虐待通報もあり、これまで曖昧にされていた吸引等の医療行為について改善に取り組み、次年度の重点課題としても継続して取り組みます。財政面では、やはり新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、短期入所と通所のキャンセルが相次ぎ利用率が低下しました。また、短期間に退所が集中したために、更に厳しい状況となりました。

2 中長期計画の取組結果

訪問介護、訪問看護サービス事業所の開設は実現の見込みが立たず、法人と協働で検討していく事に方針を転換しました。清瀬喜望園の開設等により開設の環境が整わず、次期中期計画に開設準備として盛り込みました。

資質向上のための資格取得目標は、リフトリーダー3名、インストラクター13名、接遇検定40名、合格者の合計が56名となり目標の全体の3割(25名)を大きく上回ることができました。また、介護福祉士も2名合格して介護職員の有資格者が55名を越し目標を達成できました。

3 重点目標の取り組みと来期の課題

1) 提供するサービス

【目標】 ①ケアの質と QOL の向上 ②医療ニーズへの対応
【取り組み】 ① 介護と医療の連携強化を図るため、毎月医療連携会議を開催して情報共有に努めました。また、生活支援員に医療の知識を得てもらうために医療研修を開催しました。第一回は薬の効果と副反応等の薬の危険性をテーマに「薬剤研修」を実施して、ケアの質の向上と安全・安心なケアの提供に努めました。QOL は新型コロナウイルス感染防止の強化の影響で外出等が制限されているために、敷地を利用したオリエンテーションやお正月企画等の代替の企画を提供しました。 ② ご利用者の高齢化、重度化の進行、胃瘻造設者の増加、てんかん発作管理等医療的ケアが必要な新規利用者の受入れに対応するために、特定行為認定者(喀痰吸引)の増員に取り組みました。
【取り組みの結果】

① 服薬に関するヒヤリ事故報告に薬の取り違えが無くなりました。配薬・服薬時のダブルチェックの徹底や、薬剤研修による効果と思われます。

感染防止対策で中止となった大型企画の代替企画は感染防止に十分配慮しなければならず、企画自体に制限がありました。お正月企画では、活動室に「まりも神社」を作り職員による模擬店を開きました。技能実習生がベトナム料理を振舞い、ベトナムを紹介する良い機会となりました。また、少人数でできる企画を実施して好評を得ましたが、全利用者の参加には至りませんでした。QOLと自己実現をどの様に向上させていくかが課題となりました。

② 令和2年度の特定行為認定者は不特定が1名、特定が6名でした。3月に7名が修了し、認定証の発行待ちとなっています。7名の認定が済めば、特定・不特定を合わせて生活支援員（常勤）の47.9%（令和2年9月時点で25.5%）が取得したことになります。また、今までは男性利用者は男性職員、女性利用者は女性職員で認定者を分けていましたが、男女利用者を合わせて認定取得を進めました。

2) 人材育成

【目標】

- ①リーダー層の育成
- ②専門性の向上
- ③資格取得

【取り組み】

- ① 施設運営を理解してもらう取り掛かりとして、管理監督職に就業規則の解説をおこないました。介護給付費の加算の解説は実施することができませんでした。
- ② 上半期は新型コロナの影響で研修を見送りました。また、外部研修も中止となり、予定通りに研修が行なえませんでした。こうした状況の中で身体障害だけではなく障害について幅広く理解してもらうために知的障害に関する研修と見学を実施しました。また、福祉経験の無い新人職員にスタートアップ研修を受講してもらいました。
- ③ 資格取得助成制度の周知等をおこない、介護福祉士等の国家資格取得を促しました。また、居宅介護事業所立上げ等の将来ビジョンを示し、介護福祉士、社会福祉士の勉強会にケアマネを追加しました。

【取り組みの結果】

- ① 職員体制が厳しくなり、管理監督職が全員集まる機会が減り、就業規則の解説は途中で実施できなくなりました。介護給付費の加算については次年度に繰り越しとなりました。
- ② 身体・知的重複障害の利用者の適切な支援を考える機会となりました。スタートアップ研修では、OJTでは伝えきれない福祉理論を勉強してもらい、福祉従事者としての心構えを身に付けてもらいました。
- ③ 介護福祉士2名、社会福祉士1名、精神保健福祉士1名が合格しました。介護福祉士51名、社会福祉士11名、精神保健福祉士5名となり、生活支援員の介護福祉士取得割合は62.0%となりました。

3) 地域連携

【目標】 ①施設の専門性・設備の提供 ②地域の障害者支援
【取り組み】 ① 新型コロナウイルス感染防止の為、多目的室等の設備開放、地域の方々によるイベントの開催、ボランティアの受入れは全て中止となりました。地域の方々やボランティアとの交流を絶やさないように3か月に一度の頻度で広報誌や手紙を送りました。 ② 新型コロナウイルス感染防止の為、社会参加の促進は行えませんでした。清瀬市のパラリンピック聖火ビジットに申し込みしました。
【取り組みの結果】 ① ボランティアの方 5～6 名からお返事をいただき、地域の方からは富士山の写真を提供していただく等、細いながらも交流が続いています。 ② 令和3年8月にパラリンピックの採火式を療護園で行なう予定です。ご利用者にパラリンピックに参加している実感を得ていただきます。

4) 財政健全化

【目標】 ①総合支援費報酬等の増加 ②支出の抑制
【取り組み】 ① 新型コロナ感染症拡大の影響で、病院や施設に入所されている候補者と面会することができませんでした。リモートによる事前情報収集を提案しましたが受入れられませんでした。 ② 毎月の運営会議で収支報告書を基に収支の説明を行ないました。前年度比で増加している支出を指摘して検討いたしました。また、デマンドによる電気使用量の抑制に努めました。
【取り組みの結果】 ① 令和2年度は退所者が10名でした。面会中止の施設や病院があり、また、利用調整の不調もあって新規受入れに時間を要しましたが、平均すると昨年度より新規受入れ期間が短縮され、全て年度内に入所を完了することができました。 ② 上半期に介護用品の支出が突出していましたが、使用方法を見直す等により前年度の水準に戻りました。

5) その他

【目標】 ①法人理念、各規程・規則の統一した見解
【取り組み】 ① 新入職員のオリエンテーションで法人理念の解説を行ないました。また、毎週金曜日の課長主任ミーティングで管理監督者に就業規則の解説を行ない、就業規則に則った運営に努めました。
【取り組みの結果】

② 職員の欠員が続き、課長主任ミーティングの参加者が少ない中での就業規則の解説となり、十分な理解には至りませんでした。今後も継続する予定です。

4 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
4/13	届いた荷物が3日間放置された。	郵便物等の荷物が届いた時の連絡方法等を確認しました。郵便物は定期的に生活支援員が取りに来る、荷物は届いたら管理課職員が支援課に連絡を入れるか、クール等の食品は直接お届けすることにしました。 ご本人へは郵便物等の管理、受け渡し方法を説明し納得していただきました。
6/17	コールしたが、20分以上待たされた。	ご本人に謝罪した上で、他の支援中でコール対応が遅れる時は、状況を丁寧に説明してお待ち頂くことを周知、徹底させました。以後、同様の苦情はありません。
7/3	言葉遣いが上から目線になっている。敬意が感じられない。	虐待防止の研修やポスターで言葉遣い、呼称について啓発しました。また、不適切な言葉遣いを聞いた時はその場で注意喚起を継続しています。

5 発生した事故の内容

種別	件数	摘要
重大事故	10件	服薬事故7件、骨折2件、パンの詰め込み過ぎによる窒息1件

6 職員体制（令和3年3月31日）

職種	事務員	サビ管	生活支援員	看護師	看護助手	理学療法士	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	運転手	洗濯員	清掃員	喫茶担当	相談支援員	合計
職員数	6	2	77	11	1	3	1	1	9	2	3	5	3	2	126
内常勤	4	2	67	4	0	3	0	1	4	0	0	0	0	2	87
常勤換算	5.4	2	78.7	9.2	0.8	3	0.2	1	6.8	1.9	2.6	3.7	1.4	2	118.7

7 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修テーマ	内容	講師	参加職種	延人員
虐待防止伝達研修	虐待を生まない組織作りについて	橋本・浅野	全職員	142名
虐待防止伝達研修	東京都虐待防止研修	穂苅	全職員	137名

危険予知研修	突発的事案が発生した時の対応	危険予知部門員	生活支援員	58名
リフレーミング研修	リフレーミング解説とグループワーク	鈴木雄大職員	生活支援員	39名
知的障害者支援に関わる学習会	知的障害者の特性・事例検討	プラタナス 津田ほなみ施設長	生活支援員	15名
リフト研修（全7回）	リフト介助法の再確認・自身の介助についての振り返り	補装具部門員	生活支援員	79名
薬剤研修	薬の効用と危険性について。	看護師	生活支援員	72名

2) 施設外研修

研修名	主催	参加職種	人員
練馬区立関町福祉園見学	施設	副施設長・生活支援員	3名
福祉職員のスタートアップ研修	東社協	福祉経験の無い新入職員	4名
施設長の為の会計研修	東社協	施設長・副施設長	2名
障害者支援における感情労働の理解とメンタルヘルスについて	東社協	管理監督職	1名
制度理解研修	法人	管理監督職・生活支援員	12名
身障協経営セミナー	身障協	管理監督職	6名

8 行事の実施状況

実施月日	行事名	実施場所	参加者			
			利用者	職員	その他	計
4月29日	オリエンテーリング大会	清瀬療護園	41名	13名	0名	54名
9月21日	秋のカード集め大会	清瀬療護園	55名	15名	0名	70名
10月28日	ハロウィン企画	清瀬療護園	50名	10名	0名	60名
11月13日	メリーさんが来る！	清瀬療護園	44名	8名	0名	52名
12月23日	移動式クリスマス会	清瀬療護園	70名	10名	0名	80名
1月1日 ～3日	お正月企画	清瀬療護園	51名	11名	0名	62名
1月1日	マーじゃん大会	清瀬療護園	3名	3名	1名	7名
2月中	オセロ大会	清瀬療護園	12名	0名	0名	12名